平成30年　3月　20日

瀬戸内市議会議長

瀬戸内市議会議員　厚東　晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	平成　30年　3月　17日
研修会名	第26回発達保障研究集会（京都）
開催場所	コープイン京都
研修目的・内容	○高齢期の障害者家族と生活の諸課題 講師・田中智子氏（佛教大学） ・高齢期の障害者家族の生活にどのような問題が生じるのか 障害を持つ子どもを殺害してしまった事件 母親たちが親の役割からおりることができない現実 入所施設で生活していても「この子を置いては死ねない」と考えてしまう問題 障害者の暮らしは、家族のケア力と経済力に限定されている問題 障害者の貧困は家族に包摂されて見えにくい問題 障害者本人の収支は赤字 障害者の年齢が上がっても支出は下がらない 本人に先駆けて家族の生活の縮小は生じる 家族にも負担は意識化されていない 入所施設やグループホームでの入所で親の思いは満たされてない

30. 3. 27
528

	・高齢期の生活問題はなぜ生じるのか 障害者本人が家族と同居できる条件は両親が健康でいること 加齢に伴う変化は親子同時に進行すること 障害者の親に対する社会的支援の介入の遅れること 親は要介護ケアが必要な状況になっても、障害を持つ子どものケアをしようとすること ・社会的支援はどうあるべきか 障害者の親が納得できる積み重ねができること 障害者と家族のノーマライゼーションを追及すること 高齢者介護と障害者福祉との制度の充実をすること ○乳児期における生活の質を問う ・育ちの根っこを太く～子育て・保育・療育を考える～ 報告者・池添素氏（NPO法人福祉広場） 育ちにくい子どもを支えるために必要なこと 育てている保護者（親）の困ったは、子どものＳＯＳととらえる必要な視点 子どもとの関わりで大切にしなければいけないこと 療育・保育は育ちの根っこを太くする役割を持っていること ・親子でしっかり積み重ねる根っこ 報告者・山本幸子氏（保護者） 療育センターでの１年間の親子通園を通して子どもと一緒に過ごせたからこそ実感できた親子の変化と学んだ大切なことの体験報告 （出生から入園まで、入園後の子どもの変化、学んだこと） ・広島の療育からみた育ちの根っこ 報告者・佐々木里美氏（療育センター保育士） 療育センターでの生活や食事などの実践報告 （日課、大切にしていること、食事、行事など）
所感	高齢期の障害者家族と生活の諸課題では、家族のケース例により「わが子の殺害をしてしまった事例」を紹介し、そこから見えてくる本人や家族、社会、行政などの問題点が見えてきたが、わが市でもいつ起こってもおかしくない。障害を持つ子どもや家族が孤立しないような制度や行政の姿勢を求めていくことの必要性を強く感じた。実態把握なども行政や福祉を中心に行うようにしなければいけない。障害者やその家族こそ生きていきやすい社会にすることにより、すべての人が生きやすくなる社会が実現するのではないかと思った。

	乳児期における生活の質を問うでは、専門機関としての療育が果たす役割の重要性を感じた。広島市では、初めの１年は母子通園をするという独自の政策によって、障害を持つ子どもとその家族の支援をしている。そうすることで家族も含めて丸ごとの支援につながっている。わが市でも療育を受けている子どもが増えているので、実態を把握し、必要な具体的施策を提案していかなければならないと感じた。